気仙沼通信【第５回】　130512

上　田　　勉

釜石市―2019 年ラグビーワールドカップ日本開催の試合会場に立候補
頑張れ！釜石シーウェイブス（釜石 SW）

「海とともに生きる」（気仙沼）、「鉄と魚とラグビーの街」（釜石）。あなたはどちらの街に住みたいですか？私はもちろん○○です（漢字で書くと差し障りがあるので）。「鉄」「魚」「ラグビー」「街」、これらの言葉には、男のロマンと哀愁が漂っていると思います。私は、街歩きが好きですが、他の３つには縁がありません。

釜石市は、2019 年ラグビーワールドカップ日本開催の試合会場に立候補しています。「６年後の 2019 年までに、産業や交通や暮らしの基盤を立て直し、たくさんの国内外の人達を迎え入れる準備を整えて、そこで世界一のラグビーの試合をしてもらって、世界中から来た人達に、釜石は素晴らしい街だ、三陸・岩手はとても美しい土地で心温まる人達がいる、という思い出を持って帰ってもらえれば、それがこの街と地域の新しい財産になるだろう。」と言うのが、立候補をした趣旨です。（2020 年のオリンピック招致に立候補している東京からは遠く離れているので、イスラムの人達も安心して釜石・三陸へ来て下さい。）

釜石には、「釜石シーウェイブス（釜石 SW）」というラグビーチームがあります。その前身は日本選手権で７連覇（1978 年～84 年）を果たした、あの“北の鉄人”「新日鉄釜石」です。しかし、新日本製鉄の合理化によって、2011 年に地域密着型のクラブチームに生まれ変わりました。現在はラグビーのトップリーグ（サッカーのＪ１）の下のトップイースト（同 J2）で試合をしています。2012 年度はリーグで第３位でした。トップリーグへの復帰が、釜石や三陸の人達の願いです。

震災直後から、釜石 SW の選手達は、ボランティア活動に励みました。釜石駅傍の白色の救援物資集積テントで、数十人のボランティアに交じって、10 人程の屈強なラガーマン達が、ラグビーボールの代わりに、米袋や重たい物資をトスで繋いでいきました。（間違って、ボランティアの人達にタックルはしませんでした。）

東北には仙台を基点にして、プロ野球の東北楽天イーグルスとＪ１のベガルタ仙台があります。しかし、これらの選手達が、震災直後にボランティアに励んだということは、耳にしません。

釜石 SW には 6 人の外国人選手がいました。彼らには、福島第一原発の放射能事故によって、本国から帰国命令が出されました。しかし、5 人の選手達は、オーストラリアやニュージーランドの大使館員の説得にも応じないで、釜石に残りました。「ニュージーランドの地震では、多くの日本人が救援を手伝ってくれた。今度は僕達が世話になった釜石に恩返しをしたい。」「釜石はホームタウンと一緒なんだ。帰ったら、たぶん、ずっと後悔する。」と言うのが、外国人選手達の思いでした。

3・11 以後、関東学院大学を始めとして、多くのラグビーチームが自費で釜石に駆けつけて、親善試合をしました。試合を出来た釜石 SW の選手達は、「ラグビーの試合を出来ることが、こんなに楽しいことを初めて知った。」と感じました。

釜石 SW の応援には、何本もの大漁旗が振られます。大漁旗は、船を新造した時のお祝いとして贈られます。大漁旗は、漁船が港へ帰る時に、マストに掲げて、港のオナゴ衆に大漁を知らせるあの旗です。三陸では、大漁端のことを「福来旗（ふらいき）」と呼びます。3・11 以後、南隣りの山田町の三陸山田漁協から、50 枚の福来旗が釜石 SW に贈られました。

私の所属する水産基盤整備課では、派遣の職員が退任する時に、職員全員の前で挨拶をします。その時に、課の親睦会から福来旗が贈られます。私はその度に、自分も無事に任務を終えて、福来旗をもらえるまで頑張ろうと、決意を新たにします。

【参考文献】『負げねっすよ、釜石』　松瀬　学著、光文社刊

【応援席にはためく福来旗と早稲田のラガーマン達（5 月 12 日、盛岡南球技場、釜石ＳＷ：22VS20：早稲田大学)】

「宮城県任期付職員（土木・建築）を募集しています。申込受付期間 5 月 17 日（金）～6 月 7 日（金）です」